

「心に刻むというのは、ある出来事が自らの内面の一部となるよう、これを誠実にかつ純粹に思い浮かべることであります。……過去に目を閉ざすものは、結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです」

〔岩波ブックレット『荒れ野の四〇年』より抜粋〕これは、一九八五年のドイツの敗戦記念日に、西ドイツのヴァイツゼッカー大統領が行った演説の一部です。

四〇周年ということで、再び戦後論議が盛んになった中で、大統領演説は、国内、国外で大変高い評価を受けたと聞きます。この演説を貫いているのは、高い倫理性です。過去を見つめることこそ和解の糸口である、と淡々と説くその語り口は、読む者を感動させます。

同じ西ドイツにホイス賞という人権問題等に尽くした人に与えられる賞があります。今年のホイス賞は、ポーランド人

のシマンスキー氏が受賞しました。その受賞理由にはこの大統領演説のエッセンスが盛り込まれています。その表題も『心に刻む勇氣―和解への力―』でした。

シマンスキー氏は、一九一七年ポランド生まれ。一九四一年に逮捕され、アウシュビッツ収容所に収容されました。各地の収容所を転々とした後、四五年に脱走に成功。終戦を迎えます。その後はアウシュビッツ収容所跡の博物館にとどまり、民族間の和解のために努力してきました。彼の半生はまさに、「心に刻む勇氣」を体現したものとさえいえます。

そのシマンスキー氏が一月一日に日本にやってきました。二五日には東京・渋谷の山手教会で講演会が行われます。「心に刻む勇氣」という言葉は風化しつつある日本で、シマンスキー氏の講演はどのような反響をおこすでしょうか。



幼児の教育 第八十五巻 第十号

十月号 ◎

定価四〇〇円

昭和六十一年九月二十五日 印刷
昭和六十一年十月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一ノ一
お茶の水女子大学附属幼稚園内
発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一
印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一
発売所 株式会社 フレーベル館
振替口座東京九一―一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレイベル館にお願いいたします